

2012年2月1日発行

Vol.60

ろ ん ど

長崎県音楽連盟事務局

〒850-0056 長崎市恵美須町4-5

NBC第3ビル2F

Tel.&Fax095-820-1081

ホームページアドレス <http://www.n-rond.jp>メールアドレス nma@onyx.dti.ne.jp

ありがとう

文化振興課に配属になったのは7年前。赴任したその日から、「アウトリーチ」というあまり聞きなれない業界用語を1日30回ぐらい耳にした。演奏家との飲み会になると「ベトシチ」「メンコン」「ドボハチ」など、さらに意味不明な言葉が飛び交う。それをいちいち何ですかと聞くのも素人と思われるので、適当に知ったかぶりをした。

新人演奏会を担当し、それが切っ掛けで「ながさき音楽祭」を立ち上げることになった。音楽監督は大山平一郎さん。アメリカ帰りの監督は、雲をつかむようなスケールの話から重箱の隅を3回掃除するぐらいの繊細な話まで、難問・注文・要請・指示をぶつけてくる。電話口で約30分間、ノーガードの殴り合いのような激論をしたこともあったが、その一方でオーケストラの配置、楽器標記の仕方から焼酎の飲み方まで、実にこまやかに教えてくれる人でもあった。

音楽祭での2年半余りは、休日返上で100m走と3000m障害と走り幅跳びを同時並行で実施するような忙しさだった。その間、多くのスタッフに支えられたが、とりわけ、園田貴子さんと永野愛さんと辻宏幸さんの3人には感謝している。乏しい予算だったがボロシャツ、ポストカード、紙袋などを工夫した。酒蔵や学校コンサートは音楽連盟から提案のワクワク企画だった。そして「長崎の唄、長崎の音」演奏会オープニング。満席のブリックホール3階席の隅で見たが、序曲と共に涙が溢れて仕方がなかった。

音楽祭の感動を忘れることが出来ず、堀内さんの声が



於：ブリックホール楽屋 (H19.12.19)

かりで連盟事務局に来て3年。当初は私なりの連盟改革案もあったが、連盟14年の「歴史と伝統」は意外と重たかったのかもしれない。ともあれ、歌やピアノやアンサンブルなど音楽の素晴らしい神々の傍で、仕事が出来たことは歌も楽器も出来ない私にとって幸せだった。

音楽は楽しい。音楽は嬉しい。音楽で今日の夕食を賄うことはできないが3日後の夕焼けを思い描くことは出来る、と信じている。

近頃気にいっている、いきものがかりの曲がある。学校コンサートのアンコールで、ヴァイオリンの前奏が流れただけで涙が出てくる曲だ。

3年間お世話になったすべての人に、お礼に替えてこの曲『ありがとう』を。
(江口 満)

サポーターは移籍しない

我々音楽連盟が自慢できることのひとつに、歴代の誠に個性的な事務局長さんの存在がある。松本先生、大和さん、柴田さん、そして江口さん。みなさん、それぞれのフィールドで素晴らしい活躍をされ、そして縁あって幸か不幸か音楽連盟の事務局長という、地味な仕事を引き受けて下さった。

県庁ではじめて江口さんにお会いした時、アコムの無人君のようなヘアースタイルのなんか変なおじさんだな、と思った。お付き合いしてみると更に変で、仕事のさばきが上手で（ほとんどスルーパス）、システム

という大きな障害に対してもひるむことなく田原総一郎真つ青の論客ぶりを発揮したかと思うと、美空ひばりに涙する。違った畑から人を集めてのチームづくりがお得意で、「ながさき音楽祭」が生まれ、連盟も活力が出た。

セリエAでは選手の移動は珍しくないが、サポーターは移籍しない。音楽文化のサポーターを自負される江口さん、きっと立場が違っても音楽連盟を応援してくれるだろう。健康も心配だが、人生のフィールドを選挙に占拠されずに、江口さんらしい人生を。

(運営委員長 堀内伊吹)